緑の架け橋

会報第 25 号
2015 年 01 月２０日
日中緑化交流基金助成事業
IFCC プロジェクト代表：佐藤晴男
協賛団体：NPO 法人アジアンロード

緑の架け橋プロジェクトに協賛ありがとうございました。プロジェクトとしては２０１４年で区切りをつけることになりましたが、IFCC では「今」だから草の根交流で「日中の緑の架け橋を」と呼びかけ、NPO アジアンロードを推進協賛団体として日中緑化植林活動を継続することになりました。今後もご参加と協賛のほどお願い致します。

～一滴が大河へと繋がるように～

2002 年に開始した寧夏・紅寺堡の現在　砂漠に根付いたポプラ（2014 年 9 月 25 日）

寧夏・紅寺堡の第一期事業地記念碑の前で」

再び呼びかけます。『今』だから緑の架け橋を

2002 年 11 月緑の架け橋推進センター設立。これは日中緑化交流基金の助成を得た事業主催・ＩＦＣＣ国際友好文化センターの呼び掛けに応えてのもの。

2008 年 11 月　緑の架け橋推進センター解散。その後、「緑の架け橋」の活動は、事業主催の IFCC 国際友好文化センターの下で「緑の架け橋プロジェクト」として継続され、201４年まで９つのプロジェクトを実施、終了。累積 205 人が参加。

次年度（2014 年度 11 月開始）から、NPO アジアンロードを推進協賛団体として内モンゴル２ヶ所、寧夏回族自治区１ヶ所を開始。

IFCC は「今」だから、尚、継続していきたいと思っています。

本会報は会員以外にも送付しております。趣旨協賛いただける場合、同封の郵便振込用紙にて、201 5年度活動へのご協力をお願い致します。

IFCC 国際友好文化センター
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405
TEL.03-3268-4387　　FAX.03-3268-6079
口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普)0858119　　郵振：00130-9-425994

会報は事業主催（ＩＦＣＣ）の植林プロジェクト特集となります

第 20回植林緑化派遣団活動報告

(第 1 回事業地 : 寧夏・紅寺堡、第 2 回事業地 : 寧夏平羅県の保育視察、第 9 回事業地 : 河北遷西県で補植)

実施 :2014 年 9 月 23 日～28 日

香川県　白井謙二

遷西県事業地で補植する佐藤代表、白井さん

○9月 22日(月)　事前学習会、結団式及び壮行会

都内麹町のホテルにて、佐藤団長及び IFCC 緑の架け橋プロジェクトの鎌田事務局長から、プロジェクトの概要や植林活動の実績について説明を受けた後、結団式及び壮行会が行われた。(団員 5 名)

○9月 23日(火)　羽田空港 ⇒ 北京市 ⇒ 西安市

羽田空港を 8 時 30 分に出発し、約 3 時間で北京空港に到着。入国審査を終えてガイドの劉さんと合流し、国内線の飛行機に乗り継ぎ西安空港へ、所要時間 1 時間 50 分のはずであったが、珍しく少し早く到着する。空港からホテルは現地手配の専用車で移動。【西安 泊】

○9月 24日(水)　西安市 ⇒ 銀川市

西安空港から飛行機で銀川市に移動する。<飛行機の所要時間は約 1 時間> その他の市内移動は現地手配の専用車を利用。【銀川 泊】

○9月 25日(木)　銀川市⇒ 中寧県紅寺堡区 ⇒ 銀川市

中国国際青年連合会の崔さんから移動中の車内で、中寧県の年間降雨量は約 300mm 、これに対して年間の水分蒸発量は約 2,800mm 。この厳しい自然環境が砂漠化する主要因との説明を受け、車窓から砂漠化した土地を目の当たりにする。そのスケールの大きさに圧倒され、日本にまで黄砂が飛来してくるのも理解できるような気がした。それとは対象的に、人々の植林等の努力によって果樹やトウモロコシなどの農作物が作付けされ、緑の風景を取り戻してきている地域も広がってきていることも確認できた。植栽地に関する説明において、植栽技術も進化してきているようで、風による土砂の流動化を少なくするため、安価な稲わらを法枠形状に敷き並べることで活着率の向上に繋がっていると聞かされた。ちなみに、これは日本人が提案したとのことであったので、物づくり日本の発想力はいまだに健在かと誇らしく思えた。また、近年、砂漠化した土地に大規模な太陽光発電や風力施設が設置され、電力の大量消費地の上海まで送電されているとの説明を大変興味深く聞き、将来における土地利用の選択肢が増えることは望ましいと感じた。

紅寺堡第 2 期事業地で

緑化プロジェクト最初の視察地は「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト<20002 ～20004 年度>」で、まず第 2 期工事の現場を視察。地元の青年連合会の出迎えを受け、代表者の周さんから取組み経過等の説明があった。2 期工事でアカシヤ、ポプラなどが植栽していたが、一部が道路整備により公園に移植されていた。(※これも植林効果によって生じた地域開発と受け取ることができるほど、植林地周辺には多くの居住区が造成されていた。) 残されていた植林地は、人工的な散水がされているなど、管理上特に問題となることは見受けられなかった。

次に、1 期工事の現場に専用車で移動する。緑の架け橋プロジェクトで最初に着手した植林地だけあり、地元青年連合会の熱烈な歓迎を受けた。ビデオ撮影もされる中、植栽地を歩きながら宋さんなどの説明を聞いた。一部被害を受け植え替えられていた箇所もあったが、佐藤団長、鎌田事務局長及びガイドの劉さんの 3 人は、このプロジェクトの事前調査段階より関わっていることから、最初に植林したポプラが根本付近では 30cm 近くまで生育している状況を見て、感慨深げな表情を見せていた。

紅寺堡第 1 期事業地のポプラ。11 年で根基が２０㎝にも。

地元青年連合会主催の歓迎会を、昼食・夕食時にそれぞれ開催して頂いた。【銀川 泊】

○9月 26日(金)　銀川市 ⇒ 平羅県平羅区 ⇒ 北京市

当日の視察地は、寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業<20004 ～20006 年度>で、地元青年連合会主催の歓迎会を昼食時に催してもらった後、専用車で現地に移動し、地元青年連合会の郭さんなどから概要説明

――５P へ続く

内蒙古自治区で始る事業地「蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェク」「中日青年灤河源生態緑化モデル林事業」を事前視察

ＮＰＯ法人・アジアンロード　理事長　宮秋道男

IFCCは2014年度から新規・中国緑化植林活動を３事業地で開始することになった。内モンゴル・シリンゴル盟多倫県で２ヶ所、これまで続けてきた寧夏の固原市で１ヶ所。この事業に当たってＮＰＯ法人・アジアンロードと提携することになり、宮秋道男理事長に内モンゴルの事業地を視察していただいた。

中国・内蒙古自治区で始まった「緑の架け橋プロジェクト事業」に今回初めて参加した。

２０１４年度事業開始にあたり、現地調査に向う。北京空港に降り立つと中国国際青年交流中心の崔さんとＩＦＣＣ北京事務所の劉さんが待っていてくれた。「ここから車です。結構時間かかりますので、食事は簡単に済ませてすぐに出発しましょう！」と流ちょうな日本語である。

高速道路を使って、約８時間。途中、ほんのしばしの休憩は取ったものの、ずっと車の中で、そしてようやく現地に着く。あたりは真っ暗だったが、地元の霍锦炳（huo·jinbing）県長、それに内蒙古自治区青年連合会の李中增(li·zhongzeng)副主席らが待っていてくれて、明日の視察予定の説明を兼ねた宴席に招かれた。

県長いわく。「この地区は、内蒙古自治区の南端で、河北省に隣接する。気候変動と長年の過放牧によって、砂漠化が進んでおり、なんとしてもこの地区で砂漠化を食い止め、グリーンベルトを構築したい。かつて朱熔鎔基首相がこの地を訪れ、そのことを強調した」と。

今回の視察で許された時間は、丸一日のみ。翌日、早速、助成対象の場所に足を運んだ。県内では２か所。蔡木山郷地区と大河口郷地区である。街の中心地から車で２０分ほどで、第一の地区・**蔡木山郷地区**に着いた。現地には、地元の林業局の主任も来ていて、地域の特性や作業内容などの説明を受ける。

砂漠というよりかは、どちらかというと草原地区。昨日の県長の説明でも年間雨量は、３００ミリ台だった。ただし、確実に砂漠化が進みつつあるようで、３分の１ぐらいは表土の砂地が見えている。この地区では、すでに一部、植林作業を進めていた。年があけて、春になると活着しているかどうかはわかるという。林業局の方は言う。「この苗木が背

払込取扱票

00

口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。

口座記号	口座番号（右詰で記入）	金額
※00130－※9	※ 425994	※ 千 百 十 万 千 百 十 円

加入者名　※ 緑の架け橋推進センター　　料金　　備考

通信欄・ご依頼人

※■日中友好植林活動・緑の架け橋2014年度（2014年11月～2015年10月）
協賛会費にご協力ください。
■口座名は「緑の架け橋推進センター」を継続します。
協賛者名：
協賛会費：　　円
※協賛会費
個人1口 3,000円×（　　）口
団体1口10,000円×（　　）口

〒　－
※おところ
※おなまえ　様
（ご連絡先電話番号　　－　　－　　）

日附印

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記載ください。

切り取らないでお出しください。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)

これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号　※00130－※9　※ 425994

加入者名　※ 緑の架け橋推進センター

金額　※ 千 百 十 万 千 百 十 円

ご依頼人　おなまえ ※　様

料金　（消費税込み）　円　　日附印

備考

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

◎住所やご連絡先は正確に記入下さい。

丈ほどになるのは、１０年ぐらい先でしょうか。緑のベルトに大きく育つのは、２０年後、３０年後先となります !!。

昼食を間にはさみ、**大河口郷地区**にも足を運ぶ。こちらも先に見た地区と同じで草原である。かつて採草地として活用されていて、なだらかな斜面に苗木を植えるという。この地区での植林そのものは、今年はすでに遅く、来年の春を待って作業を進める。それぞれ苗木は現地の方々が育苗したものを使い、植える労力も現地の方にお願いしているとか。

以上の２か所の他、朱熔鎔基首相が訪れた場所や、その後、進めてきた「１００万苗造林地区」、そして、内蒙古・北京・天津・河北省の４つの中青連が建設を進めている「**環境教育実践基地**」も見学した。

３日目、早朝、現地を出発して帰路についた。

新規事業地の原風景

日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林

蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト

中日青年灤河源生態緑化モデル林事業

【2014 年度（2014 年 11 月～）事業地事業規模】

区分	日中青年寧夏固原市生態緑化モデル林　一期目		蒙京津冀青少年生態緑化モデル林プロジェクト　一期目		中日青年灤河源生態緑化モデル林事業　一期目		摘　要
	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	
植林	11,323	28,3000本(25ha)	6,475	54,450本(33ha)	10,560	100,000本(60ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	1,650	灌水・農薬散布・施肥等	2,450	除草・施肥・農薬散布等	5,280	除草・施肥・農薬散布等	灌水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	413	農薬散布器、ホース、肥料等	490	消火器、肥料等	0	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	1,650	灌漑設備等	1,155	灌漑設備等	495	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	320	通信・印刷等	320	通信・印刷等	320	通信・印刷等	
技術者派遣	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	
その他	446	測量計画費等	1,039	技術指導等	490	測量計画設計費	助成経費以外の経費
合計	16,502(内、助成 9,500)		12,629(内、助成 9,600)		17,851(内、助成 9,500)		

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付ATMでもご利用いただけます。
・この払込書をゆうちょ銀行または郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。
・この用紙による払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
３万円以上
貼　　付

印

この場所には、何も記載しないでください。

IFCC 緑の架け橋プロジェクト 2013 年度活動報告

2008 年度（2008 年 11 月）以降、「ＩＦＣＣ緑の架け橋プロジェクト」として世話人会をつくり、植林緑化活動の継続を進めてきました。2014 年の「日中青年河北遷西県生態防護林」三期目をもって９のプロジェクトを終えたことになります。

201 は１回の派遣団しか実施できず第２０回派遣団のみとなりました。会報は2014年１月に 23 号、同年６月に 24 号を発行。

IFCC 緑の架け橋プロジェクトは一旦閉めますが、「今」だからこそ草の根の日中交流としての緑化植林活動を、再び呼びかけたい思いです。

プロジェクト名		
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト（済）	2002 年度～2004 年度	330ha
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業（済）	2004 年度～2006 年度	290ha
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業(済)	2005 年度～2007 年度	300ha
日中青年銀川生態緑化林事業（済）	2007 年度～2009 年度	180ha
日中青年石嘴山生態緑化林事業（済）	2007 年度～2009 年度	250ha
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業（済）	2008 年度～2010 年度	300ha
寧夏呉忠市太陽山開発区生態緑化モデル林事業(済)	2010 年度～2012 年度	210ha
日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業(済)	2010 年度～2012 年度	220ha
日中青年河北遷西県生態防護林（済）	2011 年度～2013 年度	157ha

【2013 年度収支報告】（実績 2013 年 11 月 30 日～2014 年 11 月 29 日）

収　入

費目	実績（円）	摘要
繰越金	0	
協賛会費	54, 000	
植林協力金	60, 000	20 回, 他派遣
寄付金	26, 000	3 件
賛助金	270, 743	
助成金①	400, 000	派遣経費、基金より
助成金②	400, 000	派遣経費、基金より
会場費	15, 000	学習会参加費
借入金	174, 114	IFCC より
雑収入	0	団費余剰分
計		1, 390, 857

支　出

費目	実績（円）	摘要
事務所間借代	0	240, 000 未払い
通信・送料	160, 448	60, 000 未払い
事務局費	250, 368	翻訳、会場費等
事業費	749, 680	派遣費補填
印刷代	211, 336	会報 2 回含む
備品・消耗品	600	
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ自己資金	0	
返済金	0	
未払金	0	
雑費	18, 425	送金料
計		1, 390, 857

【2013 年度貸借表】単位・円

貸　方				借　方		借方の説明
通帳	3,009	郵便振替	0	返済金	424, 114	立ち上げ資金 250, 000 13 借入金 174, 114
現金	0	自己資金分	316,283			
				未払金	300, 000	13 事務所代、電話代
			計 319,292			計 742,114

2014 年度の活動計画

Ⅰ．会報『緑の架け橋』年２回発行

201 4 年は、緑の架け橋推進プロジェクトが活動を開始して以来、12 年を迎えることになります。2014 年度から活動の枠組みが変わりますが会報名は継続していきます。

Ⅱ．協賛呼びかけ

継続して、協賛を呼びかけていきます。賛金の目安は個人一口× ３,000 円、団体一口× 10,000 円。

Ⅲ．植林協力金の要請

植林活動参加者１人の植林協力金を 10,000 円としてお願いしていきます。

Ⅳ．植林緑化派遣団の実施

起工式と補植で年２回の植林派遣団を目指します。「今」の時だからこそ草の根の日中友好交流事業として継続したいと思います。４月、９月を予定。

【推進協賛団体・NPO アジアンロードとは】

アジアとの等身大の交流を図りたいという思いを結実し、２０００年４月に生まれた。

２１世紀は「アジアの時代」といわれる。しかし、日本という国は、アメリカとの協調を更に進めようとしている。 アジアの国が、人びとが、＜日本＞に多くの期待を寄せているのに、である。 だから、民衆レベルで、アジアの人びとと直接結びついている＜流れ＞ ＜道＞をつくりたいと私たちは考えた。
それは、もちろん単なる＜思い＞だけでは不充分だ。
具体的に結びついている＜人＞を双方につくり、それを担う人を育てていくことだ。
それらを通じて言葉だけではない、アジアを理解できる＜心＞を日本人の中に、アジアの中に育みたいと考えるのだ。

そのためにもちろん、まじめに、オーソドックスなアプローチも行う（たとえば、現代史を実地にまなぶとか）が、それだけでなく、 すこし「遊び」や「まわりみち」も取り入れて、以上の目的をめざす。
具体的には、アジア人との交流事業（あらゆる人を対象にするが、力を入れたいのは子どもたち）も行いたいし、 そのためには、前項を前提にした研修、講義の開催（テーマ：ex.アジアで暮らす、政治、文化、風習、言語等など）も実施したい。
また、将来的には、アジアから学習意欲のある人を受け入れることも必要なことだし、 それ以前に、現実に今、日本にいるアジア人たちへの接点を求めて、何らかの支援や交流を行いたいと考える。

以上の活動を、非営利の市民活動として展開したい。――中略

いま、われわれは、アジアンロードと称して、アジアと日本の掛け橋、確かな人の流れ、 行き交いをつくりたいと決意した。
かつて、シルクロードが、アジアとヨーロッパの掛け橋になったように。（１９９９年１０月２５日、結成趣旨から）

※詳細は HP へどうぞ **http://www.asianroad.org/**

――2Pより
を受ける。★植栽実績：1 期工事<20004> 89ha 、2 期工事<20005> 100ha 、3 期工事<2000 5> 100ha 、★樹種：ナツメ、ヤナギなど、★活着率 85 %以上と説明があったが、現地の状況は活着率 85 %とは思えない状況であった。詳しく話を聞くと、平羅県の植林地は水はけが悪く立ち枯れがでたので、その後補植を行ったとのことである。現地で佐藤団長が、「Q：植林地に対する防火対策が何か取られているか？」との質問に対して、「A :植林地には車を乗り入れさせないようにしている」との回答があったが、再度、佐藤団長から「火災が起こってもそれが最小限に止まるよう、ゾーン毎に一定幅の無植栽地などを設けることについても、今後検討していく必要があると訴えた」せっかくの植林が、火災により消滅してほしくないとの思いからの団長の発言であった。

平羅県第２期事業地の８年後の柳の姿。

視察後、現地手配の専用車で銀川空港に移動し、16 ：25 発の飛行機で北京空港へ。北京のホテルまでは専用車で移動する。夜はこのプロジェクトに長く関わってこられた方々が歓迎会を催して頂き、洪さんなどと本プロジェクトの思い出話に花が咲いた。【北京 泊】

○9月 27日(土)　北京市 ⇒ 遷西県 ⇒ 北京市

岩山に段々状に石積みをして側柏を植樹

北京のホテルからガイドの劉さんの車で遷西県の植林地に移動。北京から現地まで、高速道を利用し 2 時間程度で現地に着く予定が、途中事故による渋滞で少し遅れる。それでも、今回の参加メンバーの日ごろの行いが良いためか心地よい快晴、そんなにストレスを感じず地元の青年連合会に 13 ：30 に到着。歓迎の昼食会を開催して頂き、張書記から事業の概要説明を受ける。

三期事業地の記念碑

★地理的状況：河北省迂西県に位置し、唐山との距離 60km 、北京とは距離 160km 。プロジェクト地域の下流域は全長 67.5km 、全県総面積は 1,451km ^{2}、人工 37 万人、森林率 60 %。主な産業は鉄鋼、観光で、農作物では栗が有名。日本では天津栗が有名だが、天津は出荷港の地名で、当地域の栗が取り扱われているとのことであった。

遷西県第３期事業地遠景

★気象条件：迂西県の平均降雨量は 804.1mm 、しかし、6～8 月に全年間降雨量の 75 %が降り、蒸発量が降雨量に比べて大きい。

★植林計画：３か年計画で、2014 年までに 157ha の植林を予定しており、苗木は、側柏，タイマツ。昨年の活着率は 95 %。

★保育管理：プロジェクトの終了後において、雇用された専門の林業職員がこの地域の苗木の成長と保護管理を行い、環境管理にも責任を持つ。具体的には、施設の維持管理、樹木の剪定、農薬の散布、雑草の除去及び防火などを担うとのことであった。

概要説明の後、14 ：20 第３期工事の現地に車で移動し、側柏，タイマツの補植を行う。夕方に植栽任務を終了し、北京へ帰る。【北京 泊】

○9月 28日(日)　北京市 ⇒ 羽田空港

ホテルで行程全般にわたり随行してくれた中国国際青年連合会の崔さんの見送り受けて北京空港へ移動、8：45 発の飛行機で羽田空港へ、昼過ぎ羽田空港に到着し、現地解散。

(おわりに)

緑の架け橋プロジェクトの植林緑化事業も、所期の目的を達成したことから、本年度をもって終了となる。この記念すべき第 20 回派遣団に参加できたことに感謝したい。これまで本事業に関わってこられた方々の業績を目の当たりにし、その偉業に敬意を表して派遣団の活動報告とする。

第 20 回派遣団参加者	
佐藤晴男	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ代表
白井謙二	香川・自治労
佐藤嘉代子	大分
佐藤香	大分
鎌田篤則	IFCC
劉憲良	IFCC 北京事務所